

小・中学校

平成 13 年 度

# 教育研究員研究報告書

へ き 地 教 育

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員（へき地教育）名簿

市町村名	学 校 名	氏 名
青 梅 市	第 二 小 学 校	田 崎 和 美
瑞 穂 町	瑞穂第五小学校	浦 川 淳 子
奥多摩町	水 川 小 学 校	藤 村 公 平
大 島 町	波 浮 小 学 校	市 村 貴 広
八 丈 町	三 根 小 学 校	新 井 裕
青 梅 市	第 一 中 学 校	○中 山 剛 輝
日 の 出 町	大 久 野 中 学 校	水 越 る み
檜 原 村	檜 原 中 学 校	◎秋 山 節 雄

◎世話人

○副世話人

〈担 当〉 東京都教職員研修センター 指導主事 鈴 木 春 樹

## 目 次

I 研究主題設定の理由 .....	2
1 地域・学校の特徴	
2 児童・生徒の実態	
3 へき地教育研究の課題	
II 研究の内容 .....	3
1 目指す児童・生徒像	
2 研究の仮説	
3 指導の手だて	
4 各検証授業の位置付け	
III 研究の構想 .....	5
IV 調査研究 .....	6
V 検証事例	
1 「自然の恵みを生かした体験的な活動」 .....	8
小学校第3学年 総合的な学習の時間	
2 「家庭や地域の食材を生かした調理の指導」 .....	12
中学校第2学年 技術・家庭	
3 「虫や虫博士とのかかわりを通して、地域の自然に目を向ける指導」 .....	16
小学校第2学年 生活	
4 「教科との関連を図り、地域の海水を用いた活動」 .....	20
小学校第5学年 総合的な学習の時間	
VI 研究の成果と課題 .....	24

### 【研究の概要】

東京都の西部山間及び島しょ地域の小・中学校では、豊かな自然や密接な人間関係に支えられ、特色ある教育活動を展開している。

本研究では、西部山間及び島しょ地域の児童・生徒の特性を肯定的に捉え、人とのかかわりや体験的な活動を意図的・計画的に教科等で取り入れるとともに、地域素材の活用を工夫することで、児童・生徒が郷土に愛着をもつようになると考えた。そのため、「児童・生徒の意識を大切に学習の展開」「豊かな人間関係を生かした指導の工夫」「地域素材を生かした指導の工夫」を指導の手だてとし、四つの授業研究から仮説を検証した。

## 1 研究主題設定の理由

現在、学校教育ではゆとりの中で、自ら学び自ら考える力など「生きる力」の育成が求められている。特に、小・中学校では、平成14年度の新教育課程全面実施を目前に、基礎・基本の確実な定着と児童・生徒の個性を生かす教育を充実していくことが重要である。このような状況の中、各学校では、創意工夫を生かし特色ある教育を推進していくことが課題となっている。

東京都の西部山間及び島しょ地域は、豊かな自然に恵まれ、地域の密接な人間関係や伝統文化の残る地域である。本研究は、西部山間及び島しょの小・中学校が、地域の豊かな特色を生かし、基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実を目指した研究である。ここでは、「地域・学校の特性」「児童・生徒の実態」「へき地教育研究の課題」から、研究主題設定の理由について述べる。

### 1 地域・学校の特性

西部山間及び島しょ地域では、豊かな自然、密接な人間関係、伝統文化の継承などが色濃く残り、地域の学校に対する期待も大きい。したがって、各学校は、学習対象として地域素材や人材を生かした教育を進めてきている。



その反面、少子・高齢化に伴う過疎化、テレビやインターネットなどの情報の氾濫という状況も見られる。西部山間及び島しょ地域の特色とは何か改めて問い直し、そのよさを生かす教育を考えていく必要がある。

### 2 児童・生徒の実態

児童・生徒の実態は、西部山間地域と島しょでは、地域によって違いが見られる。また、学校によっても実態が異なる。ここでは西部山間及び島しょ地域の児童・生徒の一般的な傾向として述べることにする。

児童・生徒の実態としてまず挙げられるのが、「率直、純朴、温和」などである。今年度の研究員8名の所属校においても、同様の傾向が見られる。したがって、自分の課題や活動が分かっていると、意欲的で真剣に取り組む。また、少人数の学校・学級であることが多いため、異学年間の関係が密接である。このことにより、異学年で取り組む学校の活動や行事などでも、密接な人間関係を生かすことができる。

しかし、人間関係の密接さは、少人数のため固定的な人間関係を生み出し、学習を進めていく上で、表現力や人とのかかわりが課題との指摘もある。さらに、遊び相手の減少やテレビゲーム等の遊びの変化により、児童・生徒の自然に触れる機会や地域のことを学ぶ機会が減少している。その結果、地域のことを知らずに育ち、地域への関心や愛着が希薄になっているのではないかという危惧がある。そこで、学校では地域のよさを一層生かすとともに、児童・生徒のよさを生かす授業展開を工夫する必要がある。

### 3 へき地教育研究の課題

平成12年度教育研究員「へき地教育」部会では、学校や地域の特性を生かす指導の在り方を探った。その際、残された課題として次の2点が挙げられている。

- ① 自ら課題を見付け、主体的に追求する力を高めるための実践の継続的な積み重ね、教材開発、指導法の工夫
- ② 地域の一員としての意識や自覚を高める指導法の工夫

そこで、本年度は郷土に目を向けた指導内容や指導方法の開発及びそのための指導の手だてを探ることが重要と考えた。

以上の実態や課題により、本研究では、児童・生徒が社会の変化に主体的に対応して生きていく力をはぐくむため、地域の特性を生かしながら体験的な活動を学習の中に適切に取り入れ、密接な人間関係を生かした指導の在り方について探ることを研究のねらいとした。そのため、研究主題を「郷土に目を向け、体験的な学習を通して『生きる力』をはぐくむ指導の工夫」とし、各学校の実態を踏まえたうえで、実践を通して仮説を検証することとした。

## II 研究の内容と方法

研究の方法は、先行研究の分析や調査研究により地域や児童・生徒の実態を把握し、目指す児童・生徒像を描くことから始めた。次に、目指す児童・生徒像に迫るため研究仮説を立て、研究仮説を具現化するための指導の手だてについて共通理解を図った。さらに、指導の手だての共通理解のもと、各教科等での実践から手だての有効性を探り、仮説を検証することとした。

### 1 目指す児童・生徒像

目指す児童・生徒像は、研究員8名の所属校の実態調査を踏まえ、児童・生徒のよさ、地域の特性を生かすため、次のように設定した。

#### 【目指す児童・生徒像】

- ① 意欲的に学び、自ら課題に取り組もうとする。
- ② 自分の思いや考えを表現し、互いを認め合い、共に高め合おうとする。
- ③ 郷土の自然や文化のよさを味わい、地域を大切にす気持ちをもっている。

### 2 研究の仮説

目指す児童・生徒像に迫るため、本研究では次の研究仮説を立て、研究を深めることとした。

#### 【研究の仮説】

人とのかかわりや体験的な活動を意図的・計画的に取り入れ、地域素材を活用することにより、郷土に目を向け主体的に問題解決していく児童・生徒が育つ。

「人とのかかわり」は、密接な人間関係を生かすことを意図しており、「体験的な活動」

を取り入れるに当たっては、学習指導要領の内容に基づき、意図的・計画的に行うことが必要である。また、西部山間及び島しょの地域素材の教材化や活用により、郷土への愛着をもつようになると考えた。

### 3 指導の手だて

研究員の所属校では、児童・生徒の実態及び地域の特性は異なる。また、教科等によっても指導のねらいが異なる。これらを踏まえ、次の指導の手だてにより、研究仮説に迫ることができるものと考えた。

<b>(1) 児童・生徒の意識を大切に学習の展開</b>
各教科等の学習を展開するに当たって最も重要なことは、教師が学習のねらいを明確にすることである。学習のねらいに沿って、西部山間及び島しょの児童・生徒の見方、考え方、感じ方のよさを生かす指導が必要となる。そのためには、教師が児童・生徒の活動の意味を理解し、児童・生徒の意識を生かした学習過程を工夫していく。
<b>(2) 豊かな人間関係を生かした指導の工夫</b>
地域の密接な人間関係を生かした指導を工夫することで、児童・生徒の学習対象へ立ち向かう姿勢や表現力が高まると考える。そのためには、児童・生徒同士のかかわり合う場を設定したり、地域の文化、自然関係の専門家をゲストティーチャーとして招いたりして、人とのかかわりの場を意図的に設けることが必要である。
<b>(3) 地域素材を生かした指導の工夫</b>
それぞれの地域素材が学習の対象と成り得るのかを検討し、教育活動のどの内容で、どの場面で地域素材を活用するかを工夫することが重要である。また、西部山間地域と島しょ地域では地域素材の特性も違うため、常に地域素材と学習指導要領の内容との整合性を図る必要がある。地域素材が学習対象として教材化されることで、地域の自然や文化を取り入れた体験的な学習が可能となる。

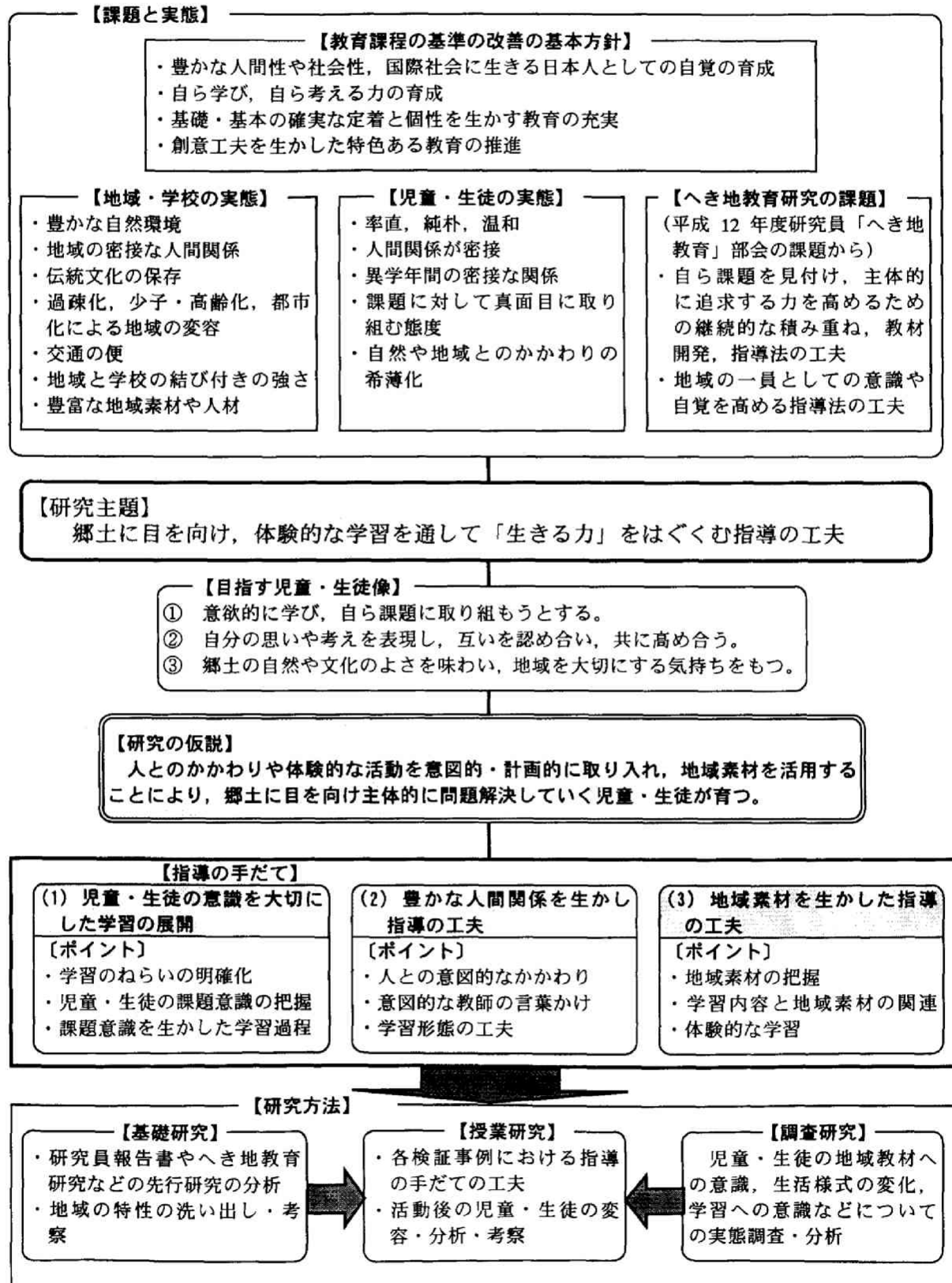
### 4 各検証事例の位置付け

前述した指導の手だては、すべての検証事例で三つの手だての有効性を明らかにしようとするものではない。検証事例ごとに三つのうちのいくつかに重点が置かれている。ただし、「地域素材を生かした指導の工夫」については、すべての検証事例で取り上げるようにした。各検証事例の意図をキーワードで示したのが次の表である。

	検証事例 (実践順)	キーワード
1	「自然の恵みを生かした体験的な活動」 (小学校第3学年 総合的な学習の時間)	中学年の総合的な学習の時間、梅干し作りと児童の課題
2	「家庭や地域の食材を生かした調理の指導」 (中学校第2学年 技術・家庭)	地域の食材の扱い、問題解決的な学習
3	「虫や虫博士とのかかわりを通して、地域の自然に目を向ける指導」 (小学校第2学年 生活)	地域の自然、専門家のゲストティーチャー
4	「教科との関連を図り、地域の海水を用いた活動」 (小学校第5学年 総合的な学習の時間)	総合的な学習の時間と教科との関連、塩作りと児童の課題

### III 研究構想

次の研究構想図は、前述の「研究主題設定の理由」及び「研究の内容と方法」について構造化したものである。





## IV 調査研究

### 1 調査目的

西部山間及び島しょ地域の児童・生徒の「地域素材への意識」「生活様式の変化」「学習への意識」について調査を実施することで、研究の方向性を明確にし、授業研究での指導に生かす。

### 2 調査対象

【小学校】西部山間地域の小学校3校，島しょ2校，1～6年生，計466名

【中学校】西部山間地域の中学校3校，1～3年生，計431名

### 3 実施時期 平成13年7月

### 4 調査結果と考察（※印は、複数回答可）

#### (1) 地域素材への意識

- 「自然」40～50%
- 「地域の行事の紹介」約15%

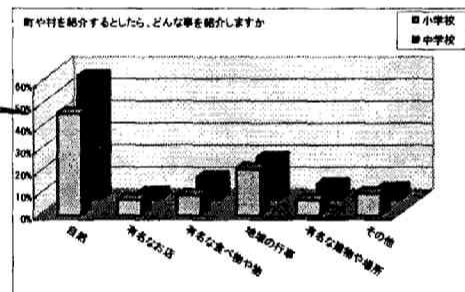
#### 【考察】

地域に目をむける質問では、児童・生徒の意識が自然や伝統的な行事，お年寄りなどに向く。また，祖父母との同居の割合が都心に比べると比較的高い。これらのことから，自然を中心とした地域素材やお年寄りなどの地域の人材を生かした活動の可能性が十分にある。そのためには，自然を中心とした地域素材がどのような学習活動で有効であるか十分検討する必要がある。

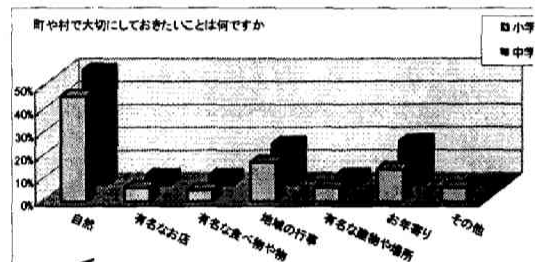
- 「自然」40～50%
- 「地域の行事の紹介」約15%
- 「お年寄り」約15%

「祖父母との同居」20～30%

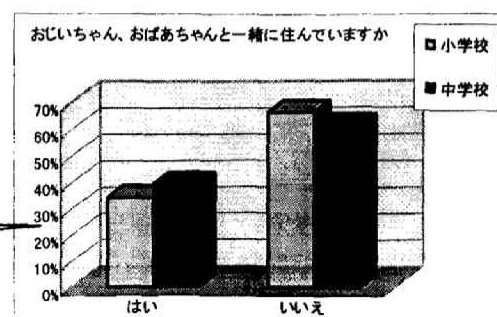
#### 【※住んでいる地域の紹介】



#### 【※大切にしておきたいこと】



#### 【祖父母との同居】





## (2) 生活様式の変化

遊び場所は、「自分の家」「友だちの家」合わせて半数以上

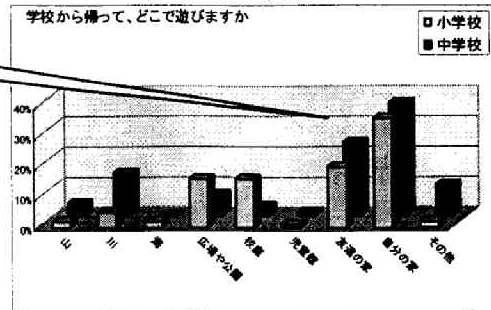
### 【考察】

児童・生徒の遊び場所として最も多いのが屋内であり、自然とのかかわりが希薄になってきている。また、都市型の便利な生活を望む傾向が見られる。

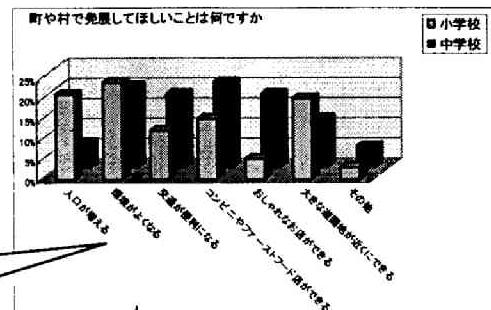
これらのことから、自然などの地域素材を生かした学習とともに、表現の場を意図的に設定したり、パソコンなどを使って積極的に情報発信したりして、身に付けている表現力を更に伸ばすことが重要と考える。

町や村に対しては、「環境がよくなる」「コンビニエンスストアやファーストフードの店ができる」「遊園地ができる」などを望んでいる。

### 【※遊び場所】



### 【※町や村が発展してほしいこと】



## (3) 学習への意識

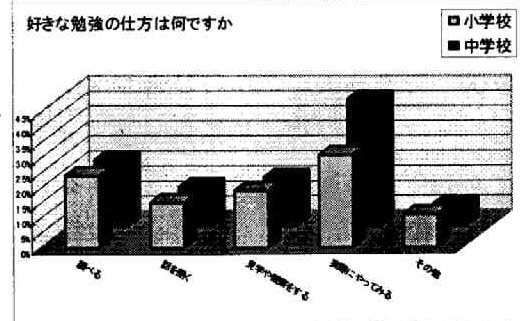
好きな勉強の方法では、「実際にやってみる」が30~40%

### 【考察】

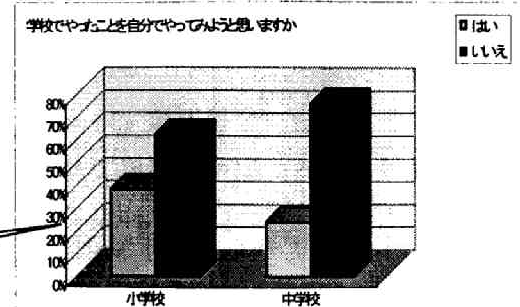
好きな勉強の仕方として「実際にやってみる。」が多い。体験的に学びたいという気持ちがあり、特に中学生にこの傾向が強い。また、「学校の学習を生かすか」という質問では、「はい」が少ない。したがって、体験的な活動を工夫し、児童・生徒の学習への意識を生かした授業展開を考えていく必要がある。

学校での学習を自分でもしてみようとするのは、小学校約35%、中学校約20%

### 【※好きな勉強の仕方】



### 【学校の学習を生かす】



## V 検証事例

検証事例 1	「自然の恵みを生かした体験的な活動」 7月～9月実施 小学校第3学年 総合的な学習の時間
-----------	---

### 1 単元名

うめぼしのひみつ

### 2 単元の目標

- (1) 地域の豊かな自然の恵みである梅の実に目を向け、自分で追求可能な課題をつくり、見通しをもって活動する。
- (2) 身近な食材に目を向け、自然からの恵みに関心をもって活動する。
- (3) 先人の知恵を学び、日本の伝統的な保存食である梅干しを作る活動を通して、郷土に愛着をもつ。

### 3 本実践の意図

本校の校地には、様々な植物が植えられている。その中でも、梅の木は約8本あり、毎年、数百個の梅の実を収穫することができる。そこで、この豊かな自然の恵みを生かした総合的な学習の時間を展開することで、児童が郷土への愛着をもつようになると考え、以下の三点を意図して実践を行った。

#### ① 地域素材の扱いと活動への意欲や見通しをもつようにする指導

身近にある食材である梅の実を学習対象とし、梅干し作りの方法を「梅干し作り名人」から習うことで、活動への意欲や見通しをもつようにする。

#### ② 児童同士がかかわり合う活動の工夫

グループによる活動を多く取り入れ、児童の課題追求の効果を上げるとともに、互いのよさを認め合うようにする。

#### ③ 郷土への関心と愛着をもつ指導

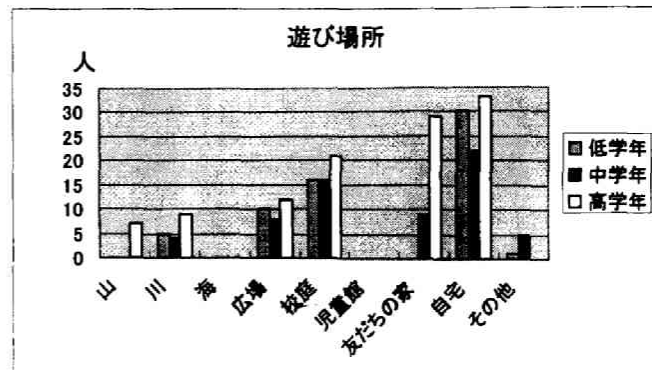
地域の食材を扱った体験的活動を工夫することで、郷土に親しみや関心をもつようにする。

### 4 児童の実態と地域の様子

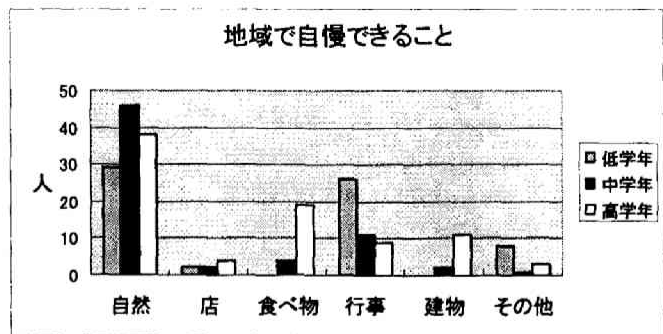
#### (1) 児童の実態

全学年単学級で全校児童 138 人の小規模校である。児童は素直で伸び伸びと生活し、男女問わず仲良く遊んでいる。

地域での生活を見ると、学区域が



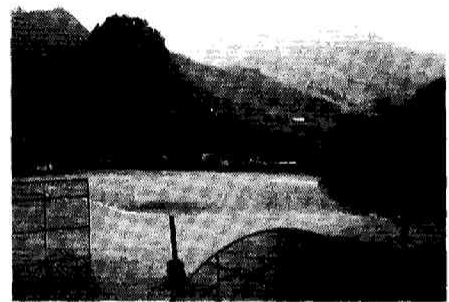
広いため、下校後の児童同士の交流は少ない。そのため、校庭で遊ぶ児童も比較的多いが、家の中で遊ぶ児童が最も多い。したがって、豊かな自然体験や地域の人々との交流など、地域のよさ、郷土のよさを学ぶ機会も少なくなっている。



## (2) 地域の様子

本町は、東京都の最西端に位置し、広大な面積を有しているが、94パーセントは山地である。最盛期には、山林経営や木材業に加え、ダム工事の関係もあって、約15,000人の人々が生活を営んでいたが、現在では経済の停滞と人口の流出などにより、約8,000人に減少し、過疎化減少は今なお進行している。町の主産業は観光であるが、町内就業者の数は少ない。かつては、町内就業者がほとんどであり、林業を中心としていたが、保護者の3分の2は町外に就業している。

## 校舎2階から見た地域



地域には獅子舞、お囃子、神楽などの芸能が多く残されており、毎年夏には各地区により祭礼が行われ、文化的にも豊かな地域であるが、伝統文化の継承者が育ちにくい現状である。

季節になれば山菜やキノコ、木の実、わさびなど、この地域ならではの食材を目にすることができ、川魚も豊富で釣り人などの来町も多い。また、豊かな自然を求め、ハイキングや登山、キャンプに訪れるなど観光客が多く、車の往来が激しくなるときもある。

## 5 指導の実際 (12時間扱い)

時数	○主な学習活動	★指導の手だて ◇評価
2	○学校の周囲の植物を観察しながら、集めた梅の実でどんなことができるか話し合う。 ・「梅干し、梅ジュース、梅酒」  梅干しを作って食べよう。	★「植物の実を探そう」をテーマに、子どもの意識を梅の実に向けるようにする。 ◇話し合いによって、集めた梅の実を使った活動を考えることができたか。
4	○梅干しの作り方を「梅干し作り名人」から聞く。 ・「梅干し作りには、シソの葉と塩がたくさんいるんだね。」 ・「塩の量が難しそうだ。」	★「梅干し作り名人」の話を板書し、梅干し作りの手順を押さえる。 ★塩やシソの葉の量、焼酎への浸し具合で、自分たちのグループの味になることを意識し、課題を練り上げるようにする。

自分たちで考えた味の梅干しを作ろう。

「甘い梅干しを作りたい。」  
「食べやすい梅干しを作る。」  
「健康によい梅干しにする。」



梅の量を量る。



○梅干し作りをする。

- ・グループで分担して、梅を洗ったりシソの葉を洗ったりしている。
- ・洗ったシソの葉の水切りができていない児童に、グループの児童が水を切るよう教えている。
- ・焼酎に軽く浸した梅に塩をまぶして、シソの葉とともに樽に入れている。

★グループごとに塩とシソの葉の量などを確認し、特徴ある梅干しができるようにする。

◇グループの希望を生かした味の梅干し作りを、友だちと協力しながら行っているか。

- 2 ○梅干し作りの活動を振り返り、活動の様子をデジタル画像や簡単な文章でまとめる。
- ・いくつかの画像の説明を分担して書いている。

★デジタル画像は児童が扱いやすいように処理しておく。

◇これまでの活動を振り返り、梅干し作りの手順のまとめや感想を書くことができたか。

【放課後、夏季休業中】

○梅干しの天日干しを交代して行う。(計3回)

2 梅干しの味の秘密は何だろう。

○できあがった梅干しを食べる会を開く。

- ・「私たちの班の梅干しは、すっぱすぎなくてちょうどいいね。」
- ・「ちょっと塩辛かったな。」

○自分の梅干しと他のグループの梅干しの味の違いについて、互いに感想を話し合う。

- ・「Aグループのは、甘い感じがする。」
- ・「塩のほかに何を入れたのかな。」

★他のグループの梅干しも食べ比べ、味の違いを楽しむようにする。



◇互いの梅干しの味を比べ、意見交換をすることができたか。

- 2 ○学年のホームページに、梅干し作りの活動の様子や感想を書き込む。

★前回まとめたものに加え、味についての感想を分担して書くようにする。

- ・「塩の具合で、ずいぶん味が違います。」
- ・「簡単に作れると思っていましたが、思ったより時間がかかりました。」
- ・「自分が食べ物を作れるなんて、とてもうれしいことです。また作りたいです。」
- ・「梅干しは嫌いだから食べていないけれど、みんなが『おいしい』とっている顔を見ているだけでうれしいです。その梅干も、みんなが作ってきたと思うとすごいなーと思います。」

◇梅干し作りの活動を通して、地域への愛着を感じているか。

#### ホームページからの情報発信



## 6 考察

本実践では、「地域素材の扱いと活動への意欲や見通しをもつようにする指導」「児童同士がかかわり合う活動の工夫」「郷土への関心と愛着をもつ指導」を意図した。そこで、この三点から課題と成果について述べる。

### (1) 地域素材の扱いと活動への意欲や見通しをもつようにする指導

児童にとって、学校に植えてある梅の実を使っでの学習は、店で売られ、普段何気なく食べている梅干しと、校庭で何気なく見ていた梅の実とを照らし合わせて、新鮮な驚きとして捉えられた。自分たちでも、食べられる物ができるのだろうか、と不安を抱きながらの活動ではあったが、「梅干し作り名人」による活動に対する細かな支援により活動への見通しをもつことができた。また、梅干し作りの作業について、その方法を板書等で示しておくことで、児童は梅干し作りの手順について理解を深めることができた。

課題としては、梅干し作りを導入とした後、児童の課題づくりへの支援の在り方である。3年生の児童の課題をどの程度広げるかを考えておく必要がある。

### (2) 児童同士がかかわり合う活動の工夫

梅干し作りをするに当たり、グループごとの味を考えるようにしたことで、どのような梅干しを作るか話し合う姿が見られた。また、グループで作業を分担するようにしたため、梅干し作りの活動では、シソの葉を洗う、樽に漬けるなどの分担を工夫していた。特に互いのグループの梅干しを試食した際、「おいしいと言ってくれてうれしい。」という感想が多かったことから、かかわり合う活動を工夫することが大切である。

さらに、まとめる段階では、デジタル画像を見ながら、メモをする児童やホームページに梅干し作りの手順を書き込む児童など、協力する姿が見られた。

### (3) 郷土への関心と愛着をもつ指導

梅の実という地域素材は、3年生の児童にとって、実を取る、梅干しを作るなどの楽しい活動となった。自然観察やものづくりの活動が、西部山間地域における総合的な学習の時間の活動として効果的である。

梅干しを作る家庭が少なくなっている現状があり、地域や家庭での体験をどのように生かしていくかが課題である。また、学校から地域へのはたらきかけも重要となる。

検証事例  
2

「家庭や地域の食材を生かした調理の指導」 9月～10月実施  
中学校第2学年 技術・家庭

## 1 題材名

我が家の自慢料理

## 2 題材の目標

- (1) 食事を社会的な面から捉え、各家庭の自慢料理を家族に聞くことで家庭の味を再確認し、地域の味を知り、より充実した食生活について考えをまとめ、実行していくことができる。
- (2) 主な食材の調理上の性質を理解し、作り方を知って実習を行い、調理の技術を身に付ける。
- (3) 計画から反省にいたる調理実習の一般的な手順と調理内容を理解し、基本的な調理用具の使い方、手入れおよび収納の方法などについて知り、安全で衛生的に実習することができる。
- (4) 自分の食生活に関心を持ち、日常食や地域の食材を生かした調理の工夫ができる。

## 3 本実践の意図

本実践では、郷土に目を向ける家庭分野の授業の在り方を工夫するため、我が家の自慢料理をもとに、季節の食材で、地域でとれるものを使った料理を生徒自身が工夫して献立を考えるようにする。そこで、次の指導の手だてを意識して実践に取り組んだ。

### ① 家庭分野における問題解決的な学習活動の工夫

本題材の前に「日常食」の題材を実施し、調理の基礎が学習に生きるようにする。また、生徒自身が献立を作り、調理の計画を立てて調理できるようにする。

### ② 季節感のある地域の食材を使った献立の工夫

各家庭の自慢料理について話し合う中から、地域の食材を意識するようにする。

## 4 生徒の実態と地域の様子

### (1) 生徒の実態

男子14名、女子12名、計25名の少人数の学級である。男女とも活発で、授業でも発言が多く元気である。性格も素直で男女間の仲が良く、行事等でも積極的に取り組み、全体的に前向きである。

1学期の授業では、栄養素の働きを学び、食品群別摂取量のめやすの表を使い、栄養的にバランスのとれた1日分の献立を作成した。その献立を使い、夏休みの課題として実際に1日の間、家庭で食事づくりを体験している。



(2) 地域の様子

本町は、東京都の西部に位置し、人口約16,000人、自然環境に大変恵まれた地域である。森林に囲まれ、地場産業として地元の木材で作った卒塔婆の生産が全国的にも有名である。

学区は、山間部から開発地域までと広く、自転車通学の生徒が約半数を占めている。その中でも特に遠い生徒は、7km先の山間部から毎日自転車で山道を通学している。生徒は、同一小学校から入学し、素直で純粋な気持ちを持ち、落ち着いて学校生活を送っている。




5 指導の実際（6時間扱い）

時数	○主な学習活動	★指導の手だて ◇評価
2	<p>○各自の自慢料理の栄養的特徴が理解できるように、食品を6つの食品群に分ける。</p> <p>○家の人から取材した自慢料理のレポートを、班の中で各自が発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮な卵で作ったスコッチエッグ</li> <li>・五目ませご飯</li> </ul> <p>○栄養のバランスや、地域の食材など、条件にあったものを、各自の自慢料理の中から1品、班で話し合って選ぶ。</p>	<p>★各自が、自分の献立中の食品を6つの食品群に分けることにより栄養の特徴について知る。</p> <p>★各自の献立で、材料や作り方、栄養の特徴などについて、聞き手を意識して発表するようにする。</p> <p>◇班員が理解できるように各自の自慢料理を発表することができたか。</p> <p>◇各自の献立を食品群別に分けることができたか。</p> <p>★献立の条件について知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>① 家庭の味・身近にある食材</p> <p>② 栄養のバランスがよい</p> <p>③ 時間、費用、道具・など</p> </div>
	<p>○選んだ料理の食材で、足りない栄養素を補うために1食分の献立を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【例】五目ませご飯 みそ汁</p> </div>	<p>★栄養の面から1食分の献立としてバランスがよいか、食品群ごとに分けた表に記入して確認できるようにする。</p> <p>★献立に地域の食材が含まれていることを意識できるようにする。</p> <p>◇栄養、地域の食材などの条件に合った献立を工夫して作成することができたか。</p>
	<p>○材料の分量を確認し、持ち寄る分担を決める。</p>	<p>★材料の分担は、班員全員で相談して決めるようにする。</p>

Aさんの五目ませご飯は、栄養のバランスがよさそう。








2	<p>○調理の実習計画を作成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 食材を洗う。 ② 食材を切る。 ③ 調理する。 ④ 片付けをする。</p> </div>	<p>★時間内に実習が終わる計画，作業分担の偏りなどに注意して計画を立てるようにする。</p> <p>◇時間内に実習の終わる計画を作ることができたか。</p>
2	<p>○各班で決めた献立の調理実習を行う。</p> <p>・計画に従い，分担した作業を始めている。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>Bさんは、ニンジンとゴボウを切ってください。</p> </div>  <p>○試食をしながら，味や自慢料理の特徴などについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>新鮮な卵と家でとれた野菜です。</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>この班の地域の食材は何ですか。</p> </div> <p>○活動を振り返り，日常食に生かす工夫について話し合う。</p>	<p>★実習計画表に従って調理を進めるようにする。</p> <p>★安全に気を付けて，協力して能率よく作業を進めるようにする。</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>包丁で切るとき、左手の形に気を付けて。</p> </div> <p>◇衛生的に実習を行うために，身じたくや手洗いができているか。</p> <p>◇計画どおりに実習を進めているか。</p> <p>★洗剤の使い方，ゴミの処理が適切にできるようにする。</p> <p>★班ごとに調理の計画，実施について，地域の食材を意識して振り返るように働きかける。</p> <p>◇地域の食材を使った料理を意識し，日常食に取り入れようとする意識がみられるか。</p>

## 6 考察

本実践においては，我が家の自慢料理を家族に聞くことから始まり，自慢料理を通して，地域の食材や我が家の味などを意識できるように考えた。次項の表は，身近な地域の食材で家庭の味，栄養のバランスなどを各班で工夫した献立の一覧である。

本実践では「家庭分野における問題解決的な学習活動の工夫」及び「季節感のある地域の食材を使った献立の工夫」を指導の手だてとして意図している。そこで，生徒の工夫した献立や活動の様子を通し，指導の手だてから成果と課題について述べる。

(☆印は地域の食材を使った料理)

班	実習の献立	献立の地域性
1班	☆コロケ 海草サラダ	・自宅で栽培しているジャガイモを使っている。 
2班	☆ハンバーグ 野菜サラダ	・ハンバーグソースを大根おろしとシメジの和風ソースにしている。シメジを使ったことで、季節感や地域の食材を生かす工夫をした。 
3班	☆スコッチエッグ みそ汁 野菜サラダ	・タマネギは、自宅で作られたものを使っている。 ・卵は、近所でニワトリを飼っている家から買ったものを使っている。
4班	☆五目まぜご飯 みそ汁	・五目まぜご飯の具を身近な材料で作っている。コンニャクや味噌については、以前からこの地域でも家庭で作られていた。 
5班	☆ギョウザ ポテトサラダ	・ギョウザの材料として、自宅の畑のニラを使っている。

### (1) 家庭分野における問題解決的な学習活動の工夫

事前に日常食の調理や食品について学んでいたこと、家で夏季休業中に食事を作ることに挑戦していたことから、本題材を通して献立を作る、調理の計画を立てる、調理するといった基本的なことが更に身に付いてきている。

課題として、材料の量について生徒は見通しをもつことができず、各班とも量の多かったことが挙げられる。各班の材料の量についても教師が事前に把握し、適切に助言していくことが重要である。

### (2) 季節感のある地域の食材を使った献立の工夫

生徒の作った献立を見ると、郷土料理というよりは家庭の日常食であり、郷土を意識した教師の意図的な働きかけが課題である。しかし、家庭の味、身近な地域の食材、栄養のバランスなどを各班で工夫していた。特に、五目まぜご飯の食材であるコンニャクは、「昔、自分の家で作っていた。」という生徒の声も聞かれ、郷土の食材を意識することにつながった。また、近所の農家の卵や自分の畑で収穫した野菜なども、生徒の地域に対する関心を高めることにつながった。

<b>検証事例</b> <b>3</b>	<b>「虫や虫博士とのかかわりを通して、地域の自然に目を向ける指導」</b> 10月実施 小学校第2学年 生活
-------------------------	--

### 1 単元名

六道山の虫たちと遊ぼう

### 2 単元の目標

- (1) 身近な虫に興味をもち、自然に親しむことができる。
- (2) 友だちと一緒に探してきた虫の世話をしたり、虫と遊んだりすることで、虫には生命があることやその成長に気付き、虫を大切にすることができる。
- (3) 観察を通して知ったことや分かったことなどを、自分らしい表現で友だちや下級生に伝えることができる。

### 3 本実践の意図

実態調査から、本校の児童は外で遊ぶこと、特に、地域の自然の中で遊ぶことが少ない傾向にある。しかし、学校では生活科の時間や休み時間などに様々な生き物に興味・関心をもち、目を輝かせている児童の姿も見ることができる。虫についての知識を交換したり、共同で飼育に取り組んでみたり、体験の共有を積極的に楽しんでいる。きっかけさえあれば、児童にとって、自然はまだまだ魅力的なものになるはずである。そこで、本実践では児童の自然への積極的なかかわりを意図し、以下の三点の手だてについて検証した。

#### ① 児童の虫への意識を大切に学習展開の工夫

虫かご作り、虫とり、虫の世話という活動の流れを、児童の意識から組み立てることで、主体的な学習が展開できるようにする。

#### ② 児童同士のかかわりの工夫

観察を通して知ったことや分かったことを、児童同士で話し合ったり、発表したりすることで、見方や考え方を広げるようにする。

#### ③ 自然や「虫博士」とのかかわりの工夫

地域の自然を習対象とし、自然や「虫博士」とのかかわりを通じた活動により、地域のよさを実感し、動植物を大切にしようとする心が育つようにする。

### 4 児童の実態と地域の様子

#### (1) 児童の実態

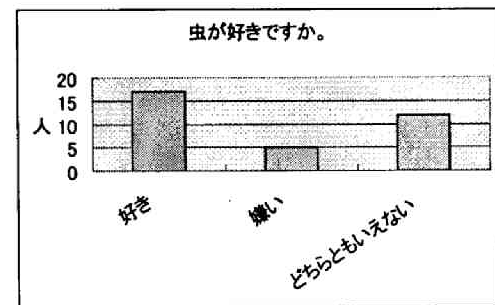
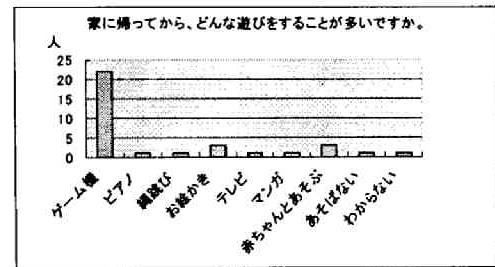
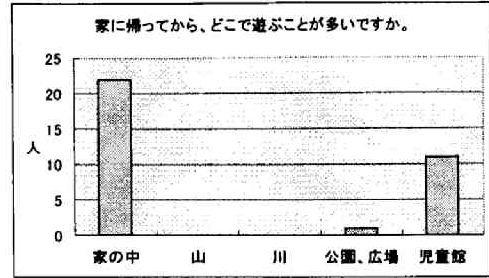
児童数34名の単学級である。協調性に乏しい面もあるが、感受性豊かで素直な面を多くもっている児童たちである。学習面・生活面においてリーダーシップをとっているのは男子が多く、女子はやや遠慮気味なところがある。

1 学期は学級でオタマジャクシやザリガニを飼っていたが、世話をするのはほとんど男

子であった。女子は興味はあっても、自分から進んで触ったり世話をしたりする姿はほとんど見られなかった。しかし、生活科の観察などでは、熱心に生物とかかわっている姿も見られた。

帰宅後の児童は、家の中や児童館で遊ぶことが多く、外ではほとんど遊んでいない。児童館には、女子が友だちを誘い合っている。家に帰ってからの遊びは、ゲーム機が多い。ゲームソフトを数多く持っていて、友だちと交代しながら遊んでいる。自分たちが住んでいる地域に自然が多いということは分かっているが、実際に自然の野山で遊んではいない。

虫については 約半数の児童が「好き」と答えているが、「嫌い」な児童も5名ほどいる。この5名は、いずれも女子である。自然環境豊かな地域で育っていても、普段の生活でほとんど虫とかかわることがなく、虫に興味を抱かない児童もいる。「虫博士」からアドバイスを受たり、虫が好きな友だちと一緒に虫探しをしたりすることで、虫に興味をもち、自然に親しむことを願っている。




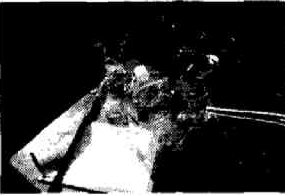




## (2) 地域の様子

本町には小学校が5校あるが、その中で一番小規模な学校であり、全校児童は230名ほどである。旧街道から北へ900メートル、都の百景に選ばれた六道山の裾に位置し、自然環境には大変恵まれている。校舎裏手にある池では毎年蛍を觀賞することができ、PTA主催で「蛍祭り」を行っている。池のわきを通り、山道を10分ほど歩くと、六道山の展望台に達し、狭山丘陵や富士山、新宿副都心の高層ビルなど四季折々の風景を楽しむこともできる。

学区は、町の東側にあり隣の市に接して南北に細長い。街道沿いは、新しい店が建ち並び賑やかだが、他は細い道が入り組んでいて交通量も少ない。また、昔からこの地域に住んでいる人も多い。心身障害者福祉センターと高齢者のデイケアセンターが学校に隣接している。

## 5 指導の実際（8時間扱い）

時間	○主な学習活動	★教師のかかわり ◇評価
1	○六道山にどんな虫がいるか予想し、虫とりの計画を立て、虫かごを作る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">バッタやコオロギがいる。</div>	★自然豊かで身近な六道山に出かけるということで、興味・関心を高めるようにする。

	 	<p>★ペットボトルを使って手作りの虫かごを作ることで、虫の苦手な児童も虫を捕まえる意欲をもつようにする。</p> <p>ペットボトルで作った虫かご</p>
2	<p>○班のめあてをつくる。</p> <p>○虫のどんなところをよく見たいか、どんなことを知りたいかを考え、発表する。</p> <p>○グループを担当する「虫博士」を知り、自己紹介をしたり、話を聞いたりする。</p>	<p>★虫とりの目的意識をもつようにする。</p> <p>◇班のめあてや虫について知りたいことなどについて自分の意見を発表していたか。</p> <p>虫博士</p> 
3	<p>虫をとりにいこう。</p> <p>○六道山に行き、「虫博士」とともに、グループで虫をさがす。</p> <p>バッタがつかまらない。</p> 	<p>★「虫博士」と一緒に活動することで、虫のおもしろさや不思議さを感じ取るようにする。</p> <p>◇友だちや「虫博士」と楽しく虫をとることができたか。</p> <p>カマキリがいるよ。</p>
4	<p>○世話の仕方を調べたり、話し合ったりし、虫のすみか作りをする。</p> <p>教室で飼おう。</p> 	<p>★グループごとに飼育し、虫を大切にしようという意識をもつようにする。</p> <p>◇世話をするために工夫したり、大切に扱うことができたか。</p>
5	<p>○虫を観察して疑問に思ったことを図書で調べ、ワークシートにまとめる。</p> <p>虫クイズをつくったらどうかな。</p>	<p>★自分が見たかったところや知りたかったことが何であったか思い出し、ワークシートにまとめていくようにする。</p>
6	<p>虫クイズをつくろう。</p> <p>7 ○前時に調べたことを基に、虫クイズをつくる。</p>	<p>★グループごとにクイズづくりをすることで、協力し合うようにする。</p> <p>◇虫の特徴を捉えて、クイズをつくることができたか。</p>
8	<p>○クイズ形式で、1年生に虫の秘密を教え、虫を紹介する。</p> <p>ネズミの顔をしたバッタは？</p> 	<p>★クイズの出し方など分かりやすく伝える工夫ができるようにする。</p>

クイズを出  
します。



- ◇他のグループのクイズを知ることで、虫に関する新たな発見を見いだすことができたか。
- ◇1年生に分かるように、虫について説明しているか。

## 6 考察

### (1) 児童の虫への意識を大切に学習展開の工夫

児童はペットボトルの虫かごを作った日から、早く虫を捕まえたいという気持ちが強くなった。また、虫を捕まえた次の日からは、虫眼鏡を使って虫を観察したり、飼育の仕方を本で調べたりするなどの姿が多く見られた。また、「もっと虫を捕まえたい。」と放課後、近くの野原で虫を捕まえる児童もいた。これらのことから、「虫かごを作ったので早く虫をとりたい。」「虫をとったので、教室で飼おう。」「虫のことが分かってきたので、クイズをつくったらどうかな。」など、児童の意識から、学習の流れを組み立てるようにしたことが、児童の意欲的な活動を連続させたと考える。

さらに、「この虫は私がとってきたの。」とうれしそうに話す児童が多く、えさを与えたり、虫かごをきれいにするなど、グループでとてもよく世話をしていた。カマキリは特に人気があり、休み時間になると、かごから出し、手に乗せたり、肩に乗せたりして遊ぶ児童の姿が見られた。



カマキリを腕に乗せる児童

### (2) 児童同士のかかわりの工夫

グループでの協力や友だちとのかかわり合いを重視したかったが、虫を捕まえる場面では、あまり見られなかった。これは、個々がその課題に夢中になっていたからである。しかし、1年生とのクイズの場面では、これまでの経験を生かしたクイズを楽しそうに出す姿が見られた。これらのことから、児童が自分の活動に集中する場面では、人とかかわりよりも自分の活動を大切に、まとめや発表などの場面では人とかかわりの場を意図的に設けると効果的であると考える。

### (3) 自然や「虫博士」とのかかわりの工夫

本単元では、「緑地公園事務所」及び「ふるさと財団」の方に地域活用のためのアドバイスをいただき、授業でも「虫博士」としてご協力いただいた。第3時の「虫をとりに行く」では、6名の「虫博士」が児童と一緒に行動することで大きな成果を得た。例えば、虫の苦手な児童は、虫のとり方を教えてもらい、近くで見えてくれるという安心感もあって、徐々に虫に対する恐怖感が薄れていった。また、虫の好きな児童は、虫をとっては「虫博士」に見せ、誉めてもらうことに喜びを感じていた。

授業後の感想は、「楽しかった。」「もっと虫をとりたい。」「虫博士にもっと話を聞きたい。」という意見が多かった。身近な地域を取り上げたことにより、地域の方との連携を図ることができ、学習活動への関心・意欲が高まったものと考えられる。



検証事例 4	<b>「教科との関連を図り，地域の海水を用いた活動」</b> 10月～11月実施 小学校第5学年 総合的な学習の時間
-----------	---

### 1 単元名

塩水探検隊

### 2 単元の目標

- (1) 地域の海水を用いることから，物が水に溶けていることに関心をもち，溶けている物と水との関係などについて意欲的に追求し，地域への愛着をもつ。
- (2) 海水から塩を取り出す活動から塩についての課題をつくり，塩を使った料理や保存食などについてまとめる。
- (3) 自分が調べたことを友だちの発表と比較することで，水の温度や量と，物の溶け方の違いなどを関係付け，自分と友だちとの違いや友だちのよさを認識する。

### 3 本実践の意図

本町は，海とのつながりが強い地域であり，身近な学習材として海水がある。海水から塩を取り出すことができれば，理科の実験や調理実習等に使用することもできる。児童は海水の存在はあまりにも身近でありすぎ，感覚的に海水に塩が含まれていると思っていても，どうやって取り出すか，どのくらい塩が溶けているかなどについて考えることが少ない。そこで，島の特性を生かし，児童の学習意欲を喚起しつつ塩を用いた活動計画を立てた。塩作りの体験的な活動から，理科の「物の溶け方」と，総合的な学習の時間の「塩水探検隊」の学習を関連付けて実施し，それぞれの学習で学んだことが，総合的に働くようになると考えた。

#### 【本実践における指導の手だて】

##### ① 教科との関連を図った学習過程の工夫

学習への意欲を高め，児童が見通しをもって学習活動を展開できるようにするため，塩が溶けている海水から塩を取り出す体験的な活動を導入として取り入れ，理科「物の溶け方」の学習と関連付けた学習の流れを工夫する。

##### ② 人とかかわる活動の工夫

導入での塩作り，理科での学習問題の設定，総合的な学習の時間における課題づくり，追求とまとめ，発表など，様々な場面で人とかかわる活動を工夫する。

##### ③ 海水という地域素材の活用

地域に対する理解を深め，島のもつ環境のよさに気付くようにするため，身近な素材である海水を用いる。

### 4 地域の様子と児童の実態

#### (1) 地域の様子

本校は，伊豆諸島南部に位置する気候温暖な島の中心部にある。島の気候の特色は，黒

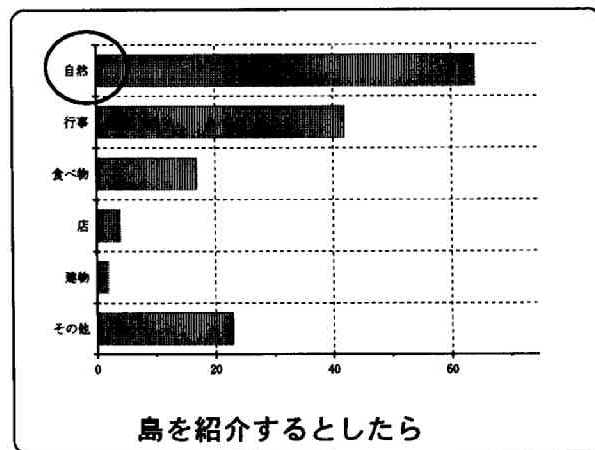
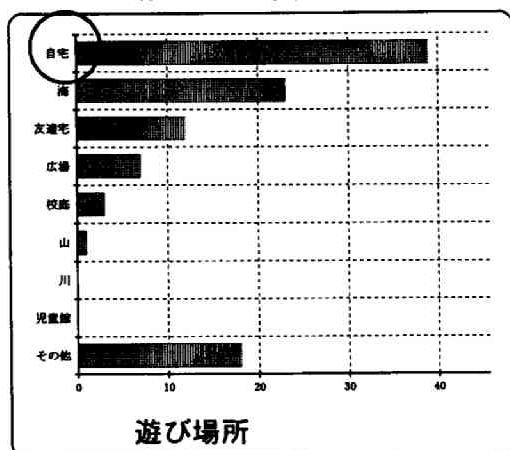


潮の影響を強く受け、厳しい暑さや寒さが無く温和で、風は寒候期を中心に強い日が多い。少し足を運べば、豊かな学習材に恵まれ、地域の人々の協力も得られる。本校の児童数は、271名で、規模は都心部の小学校と変わらないが、島の児童は、学校や地域の行事で海を利用することが多い。本校の児童たちも、春の遠足では早くから海で泳ぎ、夏休みには浜遊び、9月には遠泳をし、海は身近な存在となっている。海を学習の場として取り入れる活動から、児童たちの意識の中にも、島の環境を大切にしようという意識が育ち、総合的な学習の時間を中心に、環境保全に向けた取り組みを行っている。また、地域の産業では、水産業が全国的にも有名である。農業では園芸農業が盛んで、フリージア、ストレッチア、フェニックス・ロベレニーなど、全国でも有数の生産地である。


## (2) 児童の実態



児童は、家に帰るとテレビゲームで遊ぶなど、屋内での遊びが最も多い。しかし、島は自然が豊かなところと意識している。なぜなら、有名な産業は、その自然を生かした観光を中心としたサービス業と第一次産業である。また、児童の紹介したいことが「町の自然」ということから、郷土の自然を誇りに思っていることが分かる。地域の素材を利用することは、郷土を理解するために有効な手だてと考える。

(グラフの単位は%)



## 5 指導の実際 (総合的な学習の時間：14時間、理科：6時間)

総合的な学習の時間 (第1次, 4時間)		
時数	主な学習活動	★指導の手だて ◇評価
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">水と海水の違いは何か予想しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海水は塩辛い」・「水は味がしない。」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">水と海水を蒸発させてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海水を蒸発させると、白い物が残る。」</li> <li>・「海水から塩が取れた。」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-top: 10px;">                     塩をたくさん取りたい。                 </div> 	<p>★真水と海水を使うことで、学習対象への興味・関心を高めるようにする。</p> <p>★真水と海水を沸騰させ、蒸発の様子の違いを比較できるようにする。</p> <p>◇海水から塩を作ろうとする意欲をもっているか。</p>

<p>2 1.5 リットルの海水から、塩は何グラム取れるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「前の時間 1 リットルから 3 グラムぐらい取れたので、今日は 5 グラムぐらい取れそう。」</li> </ul> <p>塩づくりの名人に話を聞こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩を取り出す手順や塩についての話を興味深く聞いている。</li> </ul>  <p>1.5 リットルの海水から塩を取り出そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに鍋と海水を用意し、煮詰める。</li> </ul> <p>塩ではない物も取れた。</p> <p>予想よりたくさん取れた。</p> <p>塩は水にどれぐらい溶けるだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 10 リットルを 1.5 リットルに濃縮しておいた海水を用意しておき、煮詰めたとき予想より塩の量が多くなることで、児童の思考にゆさぶりをかけるようにする。</li> <li>★ 地域の人から塩作りの話を聞き、塩をたくさんとりたいたいという気持ちをもつようにする。</li> <li>★ 1.5 リットルの海水の入ったペットボトルを用意し、実験しやすいようにする。</li> </ul> <p>最初に取れるのは、にがりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★ 塩が取れる前ににがりが取れることをゲストティーチャーから伝え、塩をテーマにした課題につなげるようにする。</li> </ul>  <p>◇ 塩は水にたくさん溶けることを捉えることができたか。</p>
---	--

理科「物のとけ方」(6時間)	
○主な学習活動	★指導の手だて
<ul style="list-style-type: none"> <li>○海水には塩が溶けていることから、物の溶け方についての自分の学習問題をつくる。</li> <li>○学習計画を立てる。</li> <li>○自分の学習問題を調べたり、実験したりする。</li> <li>○実験の結果を発表する。</li> <li>○自分と友だちの実験結果を比べ、再度、自分の学習問題として実験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★塩づくりの経験を生かして、自分の学習問題をつくるようにする。</li> <li>★見通しをもって学習計画を立てるようにする。</li> <li>★溶かす物の種類や量、水の温度などを工夫できるようにしておく。</li> <li>★友だちの実験結果と比べるようにする。</li> </ul>

総合的な学習の時間(第2次, 10時間)			
時数	主な学習活動	★指導の手だて	◇評価
2	<p>「塩づくり」や「物のとけ方」で学んだことから、自分の課題をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「くさやに塩を使っている。」</li> <li>・「にがりが出たので、豆腐を作りたい。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「塩づくり」や「物のとけ方」の経験を生かして課題をつくるようにする。</li> </ul> <p>◇自分の課題を練り上げることができたか。</p>	

		<p>★児童の様々な課題に対応できるよう、似た課題の児童同士を同じグループにして追求できるようにする。</p> <p>◇調査や実験、調理などの活動を通して、自分の課題をまとめることができたか。</p> <p>★発表の方法について、グループごとに助言する。</p>
6	<p>自分の課題を調べてみよう。</p>	
2	<p>調べたことを発表しよう。</p>	<p>◇まとめたことを友だちに伝えることができたか。</p>

## 6 考察

本実践では、「教科との関連を図った学習過程」「人とかかわる活動の工夫」「海水という地域素材の活用」の有効性について検証した。その結果を以下に述べる。

### (1) 教科との関連を図った学習過程の工夫

始めに塩作りの体験をしたことで、理科「物の溶け方」では水に塩が溶けていることを体験的に捉えたうえで、実験に取り組むことができた。児童は、「水と海水とでは、水よりもお湯の方がたくさん塩が溶けそうだ。」などの予想を立てることができた。

課題としては、「塩作り」の総合的な学習の時間をすべて終えてから、「物の溶け方」の学習展開を工夫する方法も残されていることが挙げられる。「物の溶け方」の学習では、塩に関連した総合的な学習の時間を続けているという児童の意識がみられたからである。

### (2) 人とかかわる活動の工夫

発表の場があるということを経験に意識するようにしたことで、疑問や気づきをワークシートにメモし、発表につなげることができた。児童は、調査や実験などの記録をていねいにメモしていた。また、塩作りをしている人をゲストティーチャーとして招くことで、塩の作り方や塩作りの歴史だけでなく、人と塩のかかわりや人としての生き方を学ぶことができた。これらの手だてから、児童は自分の表現力を生かして人とかかわったことにより、自信をもって発表していた。

課題としては、児童に発表する必要感をもつようにすることが挙げられる。

### (3) 海水という地域素材の活用

海水から塩を取り出す活動から始まった学習は、理科の学習を経て、島と海を意識し、地域で塩を使った産業に関心をもつようになってきた。児童には、「くさやにもたくさん塩を使っている。昔は島の塩を使っていたらしい。」など、活動が発展的になっていく姿が見られるようになった。

課題としては、教材としての海水の準備をどのようにするかということが挙げられる。塩作りは大量の海水を必要とする。事前に児童自身が使う海水を用意しておくことで、地域素材に対する意識を更に高める必要がある。

## VI 研究の成果と今後の課題

これからの西部山間及び島しょ地域では、各学校が高速のインターネットと接続し、情報の発信、収集が双方向になり、リアルタイムで通信できるようになると予想される。また、児童・生徒の表現力や人間関係についても、自分の考えや感じ方を素直に伸び伸びと表そうとする意欲や態度を見ることができる。

本研究では、このような環境の進展や児童・生徒の意欲的な態度を肯定的に捉え、指導に生かす在り方を目指してきた。そのため、児童・生徒及び地域の実態について調査や協議を踏まえ、各教科等での実践を通じて検証を行ってきた。その結果、西部山間及び島しょ地域の児童・生徒には豊かな自然を基盤にした学習活動の可能性や、少人数という特性を生かした豊かな表現力育成の可能性があることが分かった。また、「地域素材を生かした指導の工夫」については、各実践で意図的に取り上げてきた。ここでは、指導の手だてを通して成果と課題を述べる。

### (1) 児童・生徒の意識を大切に学習の展開

西部山間及び島しょ地域の児童・生徒の見方、考え方、感じ方のよさを生かすことが最も必要である。例えば、児童・生徒及び地域のよさを捉え、見方、考え方、感じ方を踏まえた学習展開を工夫することで、意欲的に学習活動が連続する姿が見られた。

課題としては、教科等の指導内容と児童・生徒の思いや願いとの兼ね合いをどのように指導に生かししていくかということが挙げられる。

### (2) 豊かな人間関係を生かした指導の工夫

教師と児童・生徒、児童・生徒同士のかかわり、地域の方とのかかわりを工夫した活動は、児童・生徒の心を揺さぶる学習活動となり得る。例えば、「家庭や地域の素材を生かした調理の指導」では、1時間の間、自分の目的意識をもって野菜サラダの千切りを刻んだ生徒の姿が見られた。これは、生徒のよさを生かすための教師や生徒同士の働きかけによところが大きい。また、「虫や虫博士とのかかわりを通して、地域の自然に目を向ける指導」では、ゲストティーチャーとしての「虫博士」のかかわりが児童の活動を広げ、対象への意欲的な働きかけが見られた。

課題としては、教師がすべての活動で児童・生徒に対して人とのかかわりを求めようとしていることである。児童・生徒が自分の活動に夢中になることを教師が認めることも重要である。

### (3) 地域素材を生かした指導の工夫

西部山間及び島しょ地域では、地域素材が豊かである。各教科等の指導に当たっては、地域素材を生かした単元・題材を工夫することが重要である。例えば、「梅干しづくり」や「塩づくり」の総合的な学習の時間では、梅や海水が地域に十分ある素材であり、身近な素材を意識した指導の工夫により、児童・生徒は地域への認識を新たに、愛着を深めるきっかけとなった。

課題としては、地域素材をどのように扱うかについて、様々な教科等で洗い出す必要がある。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録  
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター

所在地 東京都目黒区目黒1-1-14

電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン